

2017年11月23日 視覚リハ協会研修会(盛岡)

基調講演

視覚障害リハビリテーション をひろげるために

視覚障害リハビリテーション協会
吉野由美子

前例を超える・前例を造る

講義補足のための参考資料
(2017年11月の視覚障害リハビリテー
ション協会研修会での基調講演から)

吉野由美子のブログ参照

<https://yoshino-yumiko.net/2017/11/post-291.html>

介護とリハは同じ目的を目指す

—人間はいくつになっても発達する権利がある—

- リハビリテーションサービスも介護サービスもその人がその人なりに自立して生きることがを保障するサービス
- どんなに障害が重度でも高齢者でも介護を受けながらリハビリテーションを受ける権利がある
- 65歳になったら、障害者福祉サービスから切られて、介護サービスになるのはおかしい

視覚障害リハビリテーションの 目的(年齢別)

- 視覚を使わなくとも、あるいは見えにくくなっているでも、生きていけると言う事を、簡単な事で、本人に自覚を持ってもらって、失った自信を取り戻してもらう事からはじめる
- 若年層では、学校への復学・復帰
- 中高年では、職業復帰・社会的な役割を果たせるようになること
- 高齢視覚障害者では、特にそのQOLの向上を図ること

ロービジョン〈弱視〉とは

- メガネ等で矯正しても視力、視機能が改善しないものをロービジョンという。



視野障害の例



視力障害の見え方

ロービジョンケアとは

- 眼科での診察・検査（病名の特定）
- 医師の指示等によりロービジョン外来へ
どんなことで困っているかの聞き取り
視機能の徹底した検査
補助具の選定と訓練
制度利用のための診断書作成
歩行等の訓練の受けられる施設への紹介
- 主に担当する人 視能訓練士が中心

視覚障害リハビリテーション

- 歩行
移動に関わること
- コミュニケーション
点字・パソコン訓練など
- 日常生活動作
掃除・洗濯・調理その他日常生活の動作
に関わる物
- その他(社会啓発・研修・環境調整)
- 認定資格 歩行訓練士(生活訓練指導員)

視覚障害生活訓練指導員(歩行訓練士) どんな仕事をする人？

①視覚障害児・者に関わる相談

②視覚障害者の生活訓練

③視覚障害向け機器紹介と訓練

④施設職員やヘルパー研修などの講師

⑤バリアフリーに関する相談

(点字ブロックの事や、新しい建物の相談)

訪問での訓練や地域に出向いての講座などを行
い、広く社会啓発的な役割を果たせる。

視覚リハの普及のために
視覚障害者に対する間違った
考え方を払拭し
視覚リハの効果と必要性を
当事者や家族や関係者に
届ける取り組み
—高知での実践を例にして—

1999年当時の高知県の 視覚障害者の状況

- 80%以上が中途視覚障害者で、視覚障害となった年齢が60歳以上が圧倒的。
- 高齢に伴う問題、糖尿病網膜症など視覚障害以外に他に健康上の問題を抱えている人が多い。
- 地理的条件・移動の困難性などで孤立化し情報の入手が困難。

1998年の高知県の事情

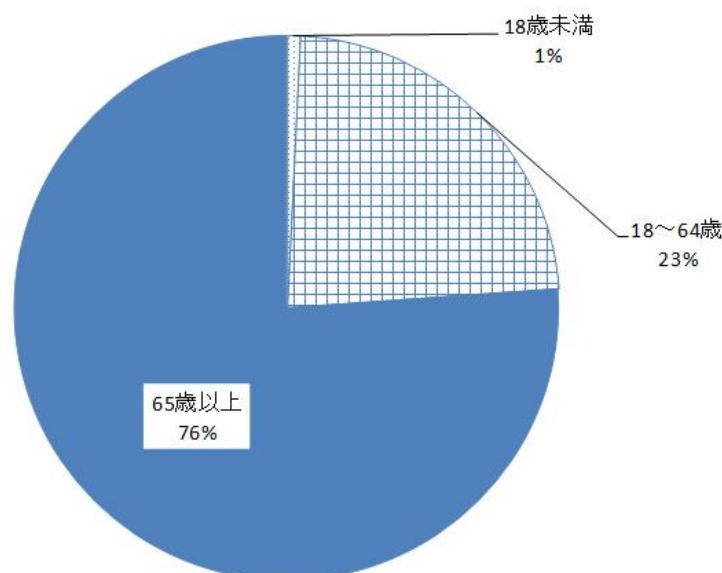
- ・ 視覚障害者に対する専門機関は、県立盲学校と市立図書館内点字図書館
- ・ 中途視覚障害者に対するサービスは、身体障害者手帳の交付と補装具の支給
- ・ 視覚障害者「自立支援事業」年間予算20万
- ・ 視覚障害生活訓練指導員（視覚リハ専門家）に対する一般・関係者の認知度は限りなくゼロに近い

高知県における手帳所持者の 年齢別状況 （平成24年3月現在）

全体:3186人

- ・18歳未満
24人(1%)
- ・18-64歳
725人(23%)
- ・65歳以上
2386人(76%)

高知県 視覚障害手帳所持者の割合



高知県で視覚障害リハの土台をつくるには

最低必要なこと

- ・ 視覚障害者のリハについての啓発
- ・ 視覚障害生活訓練指導員の働く場の確保
- ・ 視覚障害者用便利グッズ・
ロービジョンケア関係機器の購入予算の確保
と展示場所の確保

福祉サービスを新たに創り出す 絶対条件

- ・ 福祉サービスを拡充するには、そのサービスに対するニーズの存在が一般社会に認識されることが不可欠



- ・ ニーズを顕在化させなければ、サービスを拡充することは不可能

ニーズとは？

－掘り起こしの前提となる考え方－

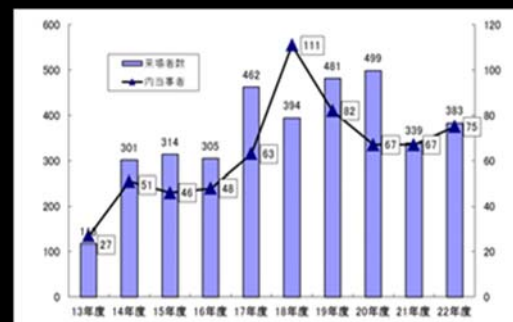
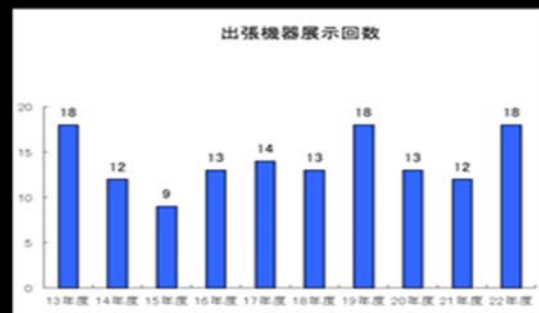
- (1) ニーズはそのニーズに対応するサービスがない時は顕在化しない。
- (2) ニーズが本物になるには、そのサービスを必要とする人達がサービスを利用して「良かった」と実感する経験を経なければならない。



高知県での視覚リハサービスはデリバリーで

2001年ルミエールサロン開設

- 職員提案事業の採択で盲学校の中に、視覚リハ専門スタッフを常駐させた機器展示室を開設
- 出張相談と出張機器展示を開始

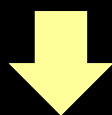


土台づくりの手法

- マスコミを使っでの啓発活動
- 先進地域から講師を招いてのイベント開催
- 県障害福祉課を始め福祉行政の担当者に視覚障害リハの必要性和有用性について理解してもらい一緒にニーズの掘り起こしと予算獲得の方法について考えて行く。
- 福祉から保健・教育・医療へと理解を広げ連携の和を広げる。
- 県職員提案事業などの活用

訪問リハから始まる連携(高知の例)

- 高齢視覚障害者が多く、公共交通機関も発達していない地域で、視覚リハに対するニーズを掘り起こすには、地域へ視覚リハサービスの専門家が出て行く方策を取るしかなかった
- 未知の地域や当事者の所に訪問するためには、その地域を熟知した福祉担当者・保健師等と連携するのが合理的

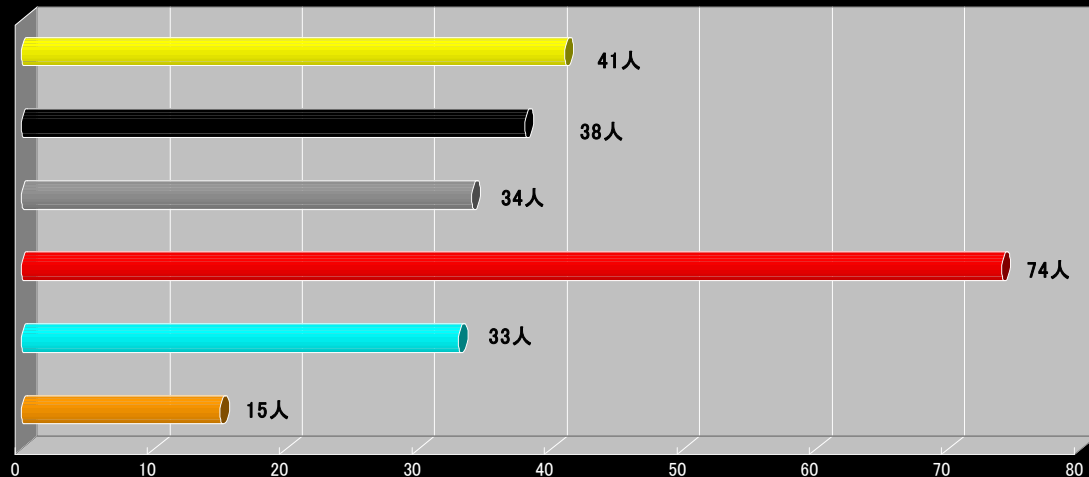


- 視覚リハ専門家の仕事を医療・福祉・保健等の多職種が目の当たりすることで、理解が深まった
- 視覚リハ専門家は多職種への啓発ができると同時に、多職種との連携により視覚リハを進めることの重要性・有効性を学んだ

平成23年12月8日読売新聞

先進地域から講師を招いて勉強会 2004年ロービジョンケア講演会参加者数

- ロービジョンケアのすばらしい効果(7/11)
- 視覚と他の障害を重複する人たちのロービジョンケア(7/18)
- 障害を併せもつ子どもたちの自己決定を引き出すための視機能評価と視環境改善(8/8)
- 乳幼児のための視覚評価法(8/23)
- ロービジョンケアの実際を学ぶ(9/12)
- 視覚と他の障害を重複する子どもの発達と視機能評価、遊び指導(10/3)

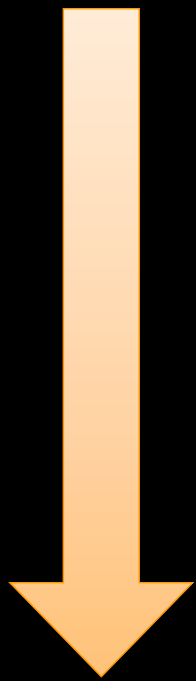


参加者合計: 235人

最大のイベント第18回視覚リハ研究発表大会(高知大会)の開催

- 2009年に高知で第18回視覚リハ研究発表大会を開催
- 視覚リハ協会会員の方たちの質の高い発表や講演を直に聴くチャンスを作る
- 大会実行委員会に高知県だけでなく近隣県からも参加していただき連携を作る
- 付設の機器展示会で20社以上が最新機器を展示し関係者がそれらに直に触れる
- 開会式に知事に挨拶いただき、県の福祉行政を巻き込む
- モンキーマジック小林さんの協力を得て、会場内にウォールを設置してクライミングができるようにした。
- 知事の出席やクライミングなどのイベントをマスコミが報道する。

連携の広がり(ニーズと対応)



理解と連携の広がり
新たなニーズの出現
その問題への取り組み
新たな連携の必要
連携の広がり
新たなニーズの発掘

18年間の地道な活動で
20万円の視覚障害者自立支援事
業の県予算が20万から
1800万になり、
歩行訓練士の資格取得者は
8人になりました。

まとめに変えて

今だからこそできること

- 大都会や一部の地域を除いては、視覚リハというものの普及はほとんど進んでいませんし、視覚リハのための専門施設もなく歩行訓練士などの視覚リハ専門家もいません。
- でも、医療との連携はやりやすくなりました
- すでに地域で視覚リハの空白を埋めようとしている試みが沢山あります。

視覚リハが普及すると

- 見えにくい人が、少しでも長く見えるよろこびを味わい続けることができます。
- 視覚障害者の仕事は「あ・は・き」だけだからといって仕方なくこの仕事につくのではなくて「あ・は・き」を選ぶという形がとれるようになります。
- 見えない・見えにくい状態になったからと言って仕事を辞めてしまう人が減ります。
- 点字図書館に録音図書があることが理解され、その使い方が理解されます。
- 盲学校は全盲の児童や生徒だけが行くところではないことが理解されます。
- デーケアサービスや老人ホームを利用している高齢視覚障害の人たちが少し幸せになります。

今ここからみんなで
連携して、できることから視覚リハサ
ービスシステムを作って行きましょう。
そのためにリハ大会を活用して
ください。

参考資料

スマートサイトとは

- 起源 米国眼科学会が提唱
- 患者に以下の症状をあるときにロービジョンケアをおこなっている施設等のパンフを渡す
矯正視力0.5以下、暗点がある、
- 視野欠損がある



- 10年ほど前に我が国に考え方導入
- 各県の眼科医会がその地域にある視覚リハ資源と連携し地域に適した手法でおこなっている。

スマートサイト実施県について

すでに実施している県

- 兵庫県版スマートサイト「つばさ」
- 山梨県版スマートサイト「なかま」
- 岡山県版スマートサイト「かけはし」
- 福島県版スマートサイト
- 北海道版スマートサイト
- 新潟県版スマートサイト「ささだんごネット」
- 仙台・宮城版スマートサイト
- 高知県

準備中の県

(開始されたかは未確認)

- 岐阜県
- 鹿児島県

ロービジョン対応医療機関

日本ロービジョン学会ページより

○岩手県立大船渡病院

〒022-8512 岩手県大船渡市大船渡町字山馬越10-1

電話番号0192-26-1111 (FAX番号0192-27-9285)

視能訓練士

○岩手県立遠野病院

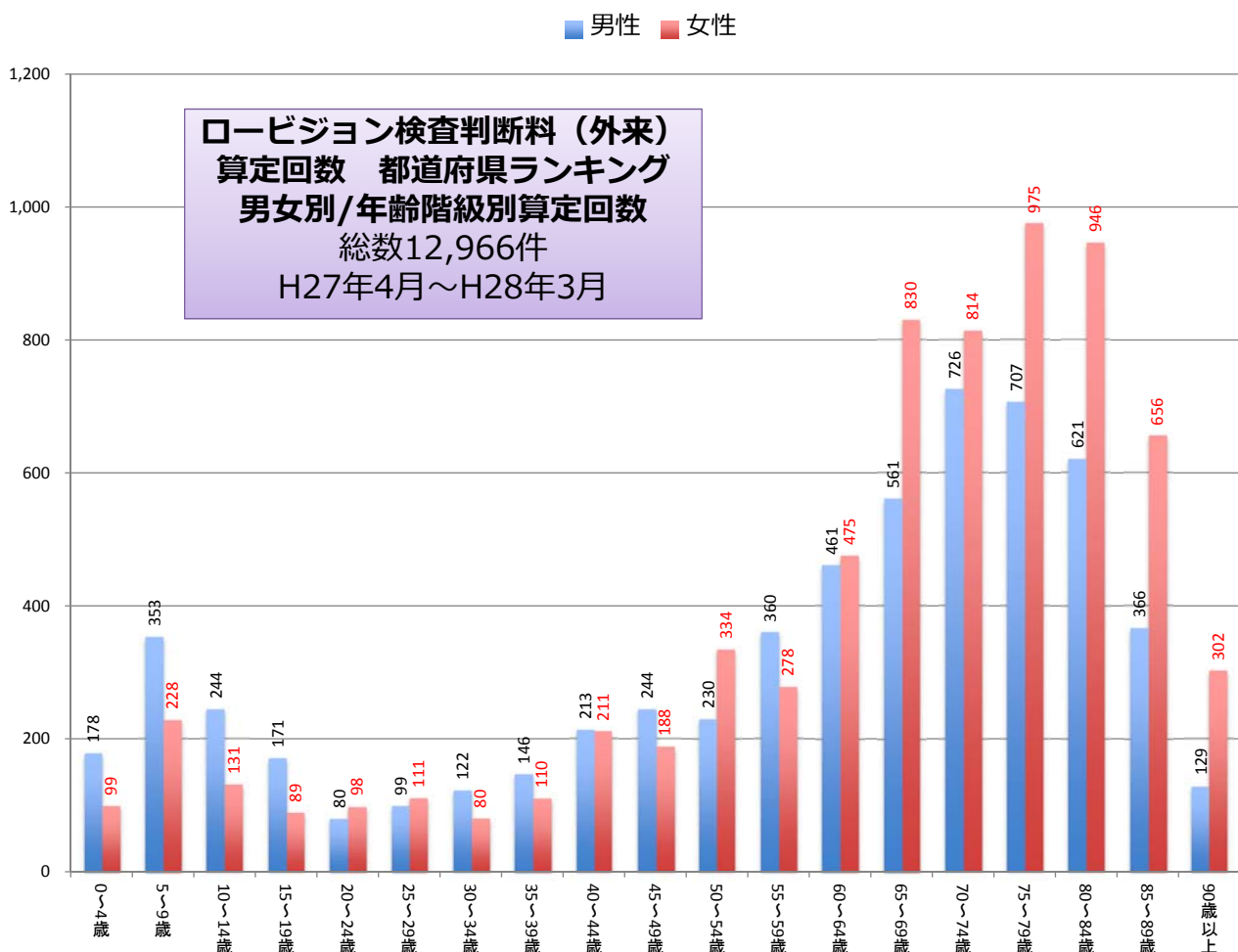
〒028-0541 岩手県遠野市松崎町白岩14地割74番地

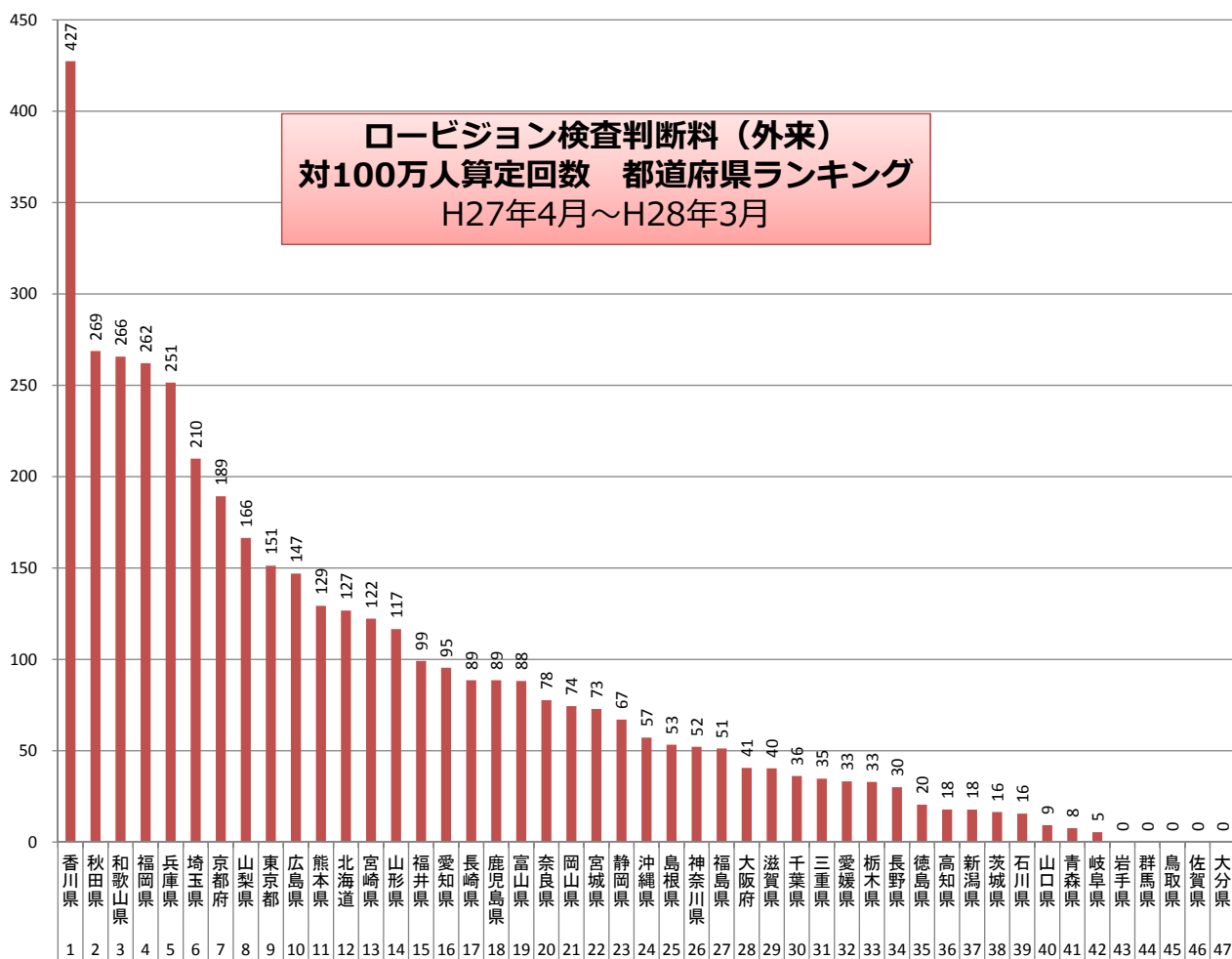
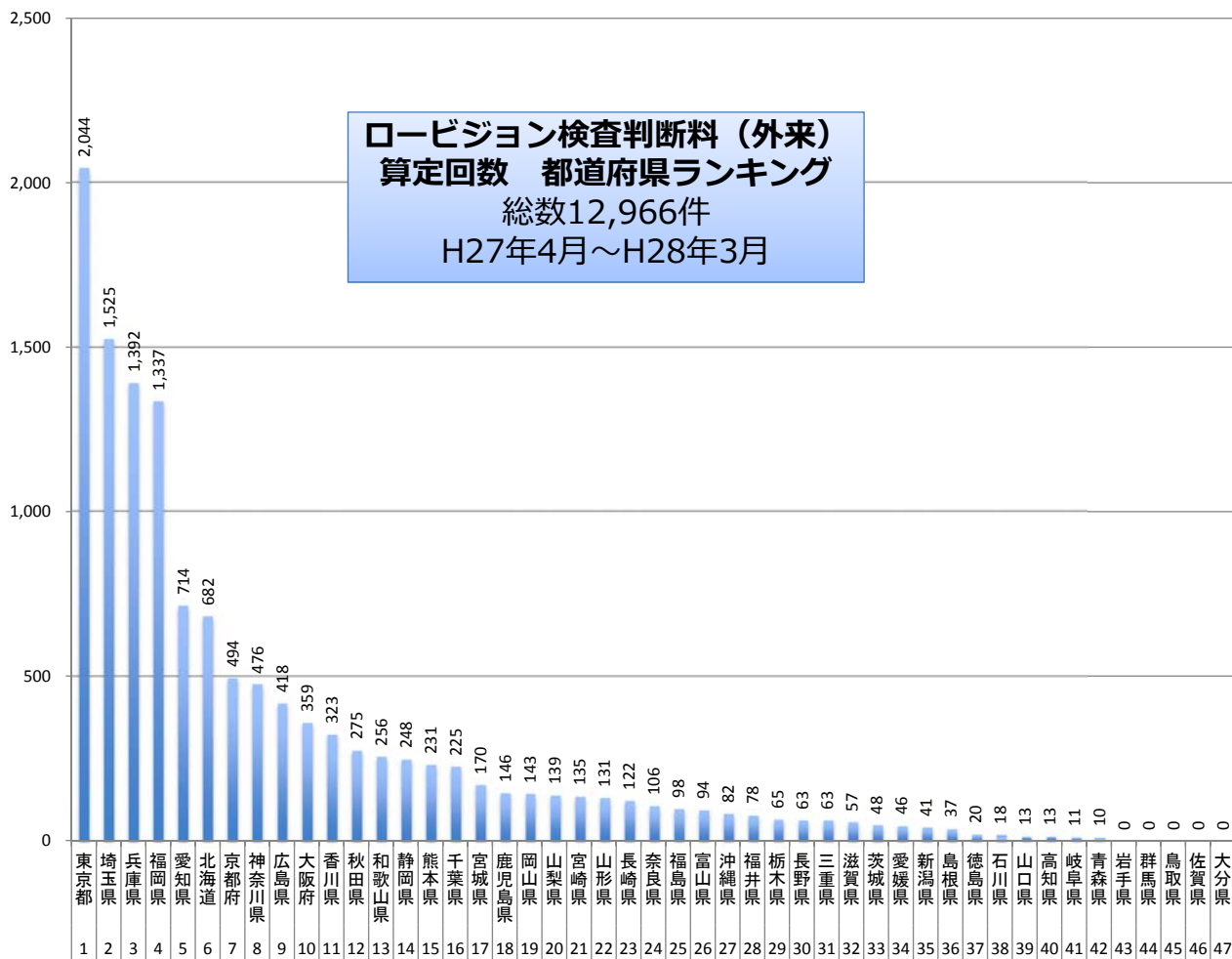
電話番号0198-62-2222 (FAX番号0198-62-0113)

眼科医

生活訓練指導員養成課程 修了者

- 岩手県に3人
- 鈴木眼科(国リハ)
- 宮古市社会福祉協議会(国リハ)
- 大小迫 つむぎの家(日ラ 歩行基礎)





地域包括ケアシステムの中へ

- 厚生労働省では、平成30年3月31日まで
- に、居宅介護事業所に同行援護従業者を置く事を義務づけた(高齢視覚障害者の外出支援施策)
- 介護保険法に基づく「地域支援事業(地域の実情に応じて企画ができる)」の中への参入

ご静聴ありがとうございました

視覚障害リハビリテーション 協会について

- 視覚障害者を支援する専門家や当事者が互いの実践を交換し学び合う場所
- 協会ホームページ
<http://www.jarvi.org/>
- 一般会員年会費5000円
- 学生会員は年会費2000円
- 第27回大会は神戸で、来年9月14日から3日間

視覚リハや私の活動に興味の
ある方は
私のブログ「吉野由美子の
考えている事している事」を見て
<http://yoshino-yumiko.net/>